

『シャロームを祈れ』 エレミヤ書 29章4～11節 2015.5.31(日)主日礼拝より

『わたしがあなたがたを引いて行ったその町の繁栄を求め、そのために主に祈れ。その繁栄は、あなたがたの繁栄になるのだから。』 エレミヤ29:7

◆バビロン捕囚という最悪の裁きが予告される中、エレミヤは神に立ち返るように必死に、何度も伝え続けたが、神の民は二分する！神に反抗してエルサレムに留まり、悲惨な結末を迎える者たちと、神の裁きを受け入れてバビロン捕囚となり、そこで神の繁栄(シャローム)に導かれる人々である。後者の人々に神は、最悪の状況の中で豊かに生きる、驚くべき祝福の秘訣を教えた(エレミヤ 29:7)。たとえ不本意な環境、不快な状況、嫌いな人の中でも、置かれた環境の繁栄(シャローム)を願い求めて祈るなら、それはあなたの繁栄(シャローム)となるという！神のくださるシャロームとは、いつも具体的で、実際的で、実感できる幸せのことである。

◆罪の本質は『聞かない頑固さ』にある。罪には必ず罰が伴うが、神に聞き、正直に、素直にその罪を認めて神に立ち返るなら、その人は豊かに憐れまれる。『…主はこう仰せられる。「バビロンに70年の満ちる頃、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たし、あなたがたをこの所に帰らせる…それは災いの計画ではなく、平安を与え…あなたがたに将来と希望を与えるためのもの」(10～11節)』と。最悪の罪人でも、豊かに祝福され、神の幸せに回復される道は、ただひとつ！神の言葉(裁き・救い・祝福)に応答する(聞き・信じ・従う)こと。神の祝福の中心は『シャローム』。

◆聖書の救いは、平和に始まり平和で結ばれる。最初のクリスマスの夜、天使は叫んだ『地の上に、平和が御心にかなう人々にあるように(ルカ2:14)』と。パウロも告げた『キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし…敵意を廃棄された方…(エペソ2:14～15)』であると。私たちがその主イエスを心に迎えたとき、シャローム(平和)を持つ神の子とされた(マタイ5:9)。その神の子に期待されているのは、『キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。…感謝の心を持つ人になりなさい(コロサイ3:15)』だった。

◆神が、バビロン捕囚に連行された人々に告げたのは、『家を建て／住みつき／畑を作って実を食べ／妻をめとり／息子・娘を生み…そこで増えよ！／その町(敵)の繁栄(シャローム)を主に祈れ！(エレミヤ 29:5～7)』と。

◆最悪としか思えない環境で、その環境のシャローム(繁栄)を祈り、不快で不本意な人々の中でシャローム(平和)を祈るとき、その地でシャローム(幸せ)の種は芽を出し、成長し、実を結ぶ(ヤコブ3:18)。シャロームの祈りが求められているのは、今あなたが置かれ、遣わされた場所においてである！苦しく辛いその状況が、あなたのシャロームとなり、その平和が世界に広がるように！